

久之浜地区防災緑地
「緑地育成活用のしくみづくり」 3月16日(日)

第6回 防災緑地づくり会議の報告

13:00～ 植栽体験 (秋葉神社前)

当日は、風が強くて少し寒かったのですが、大人も子どもも総勢60名でにぎやかに植樹を行いました。

今回の植樹は、植樹の手間がどのくらいかかるものなのか、潮風が当たる海辺でどう育つかの実験なので、将来さらに土を盛る時には植え替えが必要となります。

植えたのはクロマツ60本、アカマツ10本、そしてマツの根元を守る下草としてトベラ、ツワブキを植えてみました。植えた直後にはたっぷりと水をやり、その後は乾燥に強く育てるために水はやらないで観察します。みんなで見守り、地域の森として大切に育てましょう。

みなさん、散歩がてら見て行ってくださいね!



2才の苗です。
みんなで見守り
しましょう!



植物の専門家の吉岡先生と樹木医の木田先生による植え方の説明

14:00～ 第6回防災緑地づくり会議 (久之浜・大久支所)

植栽体験の後は場所を移して防災緑地づくり会議が開かれ、30名の方が参加されました。

まずこれまでの成果を共有するため、防災緑地計画のおさらいと前回第5回の会議のまとめが報告されました。地域には初公開の詳細図面の説明もありました。(次ページをご覧ください)

その後、『久之浜らしい森』を考える～生物多様性に学ぶ』というテーマで、4人の専門家のお話を聞きました。みなさんからたくさんの質問が出され、時間内で答えきれなかった点は、専門家の方々に改めて解説をいただくことになりました。



4人の専門家のお話について参加者が意見・質問をふせん紙に出し合い、それを整理しているところ

第7回防災緑地づくり会議は、
4月20日(日) 13時～
久之浜支所にて開催します。

「第6回 防災緑地づくり会議」での県、専門家のお話（概略）

具体的な設計案が提示されました

福島県いわき建設事務所・橋本さん

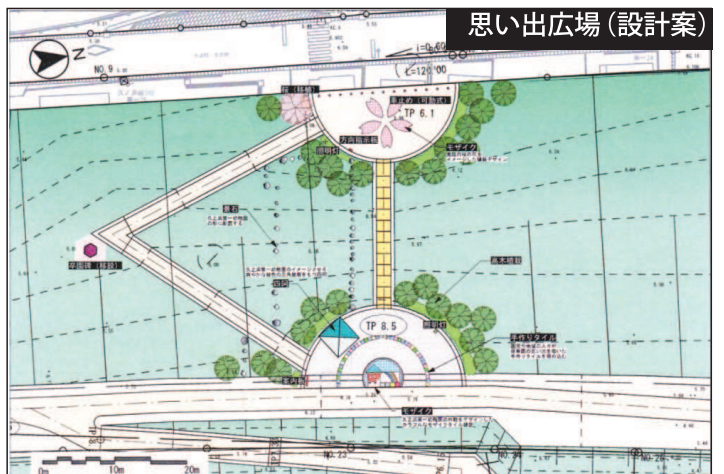
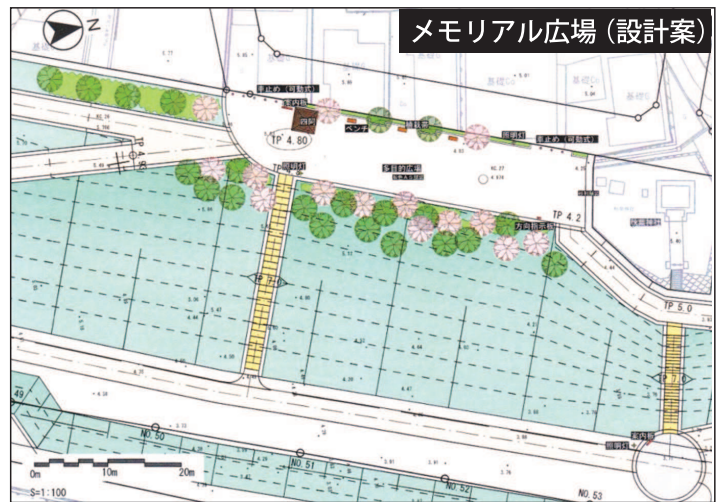
「秋葉神社」様の付近は住民のみなさんや観光客の方が憩ったり、イベントを行う「メモリアル広場」とします。鳥居から海が望めるような場所として設計していきます。（右図の上）

久之浜第一幼稚園があった場所は「思い出広場」にします。小学生のワークショップの中で、少しでも幼稚園があったことを思い出せるようにしたいという希望があったので、桜の木を植えたり園舎のあった場所がわかるようにしました。（右図の下）

これまで決まっているのは全体理念と大まかなゾーニングで、この図はたたき台の段階です。

植える樹種について、海側には潮風に強いクロマツ、トベラなどを植えていくという方向は決まりましたが、詳細については今後話し合っていきます。

防災緑地の樹木を植えるのは官民の協力により進めていく予定ですが、その後の維持管理の体制や仕組みが課題となっています。県では、できるだけ地元の方が主体的・積極的にかかわってくださることを希望しています。よろしくお願ひいたします。



植えた苗をみんなで見守りましょう！

樹木医・木田先生の話

防災緑地に植えることを前提に試験植栽が始まったのは県内初です。ちょっと引き締まった土ですが根が張るには問題なく、ペーハー（土の酸性度）も大丈夫だと思います。今日、実験的に植えた苗がどのように育っていくか、自然にどんな植物が生えてくるか、みんなで観察して、これからの緑地づくりにいかしていきましょう。

希少な海岸生物の育つ環境を考えましょう

植物の専門家・根本先生の話

海岸の砂浜や岩場には、強風や乾燥などに適応した「海岸生物」が生息します。でも福島県は、自然の海岸線の比率は全国ワースト6。また震災により、海岸線の環境も大きく変化しました。今はそれに伴う絶滅危惧種などの状況を把握する調査を行い、震災復旧事業で配慮すべき植物や場所を把握することが急務となっています。



震災後のいわき市岩間海岸 (2011年6月24日)
崖が崩落し、海丘植生が流失している

多様な生物の育つ環境を復元しましょう

生物多様性の専門家・黒沢先生の話

探してみてね!

生物の多様性という点から見ると、これからの緑地づくりの中で固有性の高い生態系，独特な生態系，少なくなった生態系を保全再生し、適切に維持・管理することが大事です。ポイントは次の2点。

- ・周囲の貴重な植生などに悪影響を与える植物は極力植えない
- ・失われた環境に近い環境を復元する ということだと思います。

そのためには、昔からの海岸環境と植生の変化について調べたり、周辺の希少な植物を調査することが大事だと思います。

土留めの必要性と、その植物を使つての工法

生態学的環境デザインの専門家・廣瀬先生の話

公園や緑地などに斜面をつくると、雨で土が流れてしまうのでそれを止める必要があります。昔は間伐した材を杭にしたり、周りの枝を整理したものを編み込んで土を留めていました。自然の樹木ならば風化しても土に戻りますし、風景としても自然な感じですよ。

人工物は壊れたら汚いですし、自然にかえすこともできません。

木杭には間伐した丸太などが向きますので、近隣の森林管理などと組み合わせていくこともできます。

ただ手仕事が増えるので、それをどうするかは課題です。ボランティアでこなすのは大変なので、まとまった仕事をつくって防災緑地の管理に携わる雇用を生み出すというのが夢ではないかと思っています。

久之浜周辺で見られる貴重な植物



ツワブキ



コハマギク



ハツチアザミ



ハマナデシコ

土留ができていない例



人工物は壊れると汚く、捨てるゴミになる

ぼんぼりのような照明で地域活性化ができた例

照明デザイナー・角館先生の話

まちの通りや街全体の照明を、ぼんぼりのような灯りに変える事で、地域が活性化した例がいくつもあります。明らかに雰囲気が高くなることで地域のみなさんが景観に関心を高め、自然なルールが生まれ、結果的に訪れる人が増え観光や商業に結びつきます。(防犯上どうかという質問に対し) 明るければ防災効果が高いかというところではなく、人の気配があることが大事なのです。一軒ごとの灯す明かりは、人の気配を感じさせ防災効果も高いようです。



森の手入れから出た枝を使った土留めの例。土や落ち葉は流さず、水だけをこしとる。



岩手県大野村

質疑応答

*みなさんが関心の高かった質問について、ご紹介します。

(質問) 久之浜第一幼稚園跡地の桜が元気がなく心配です。



木田先生の答え：樹勢が衰えているのは確かです。潮風に当たるようになり、環境が合わないんだらうと思いますが、移植に耐えられるかどうかわかりません。まずは春の芽だしや開花の様子を見守って、今後皆さんと検討していきたいと思います。開花時に写真を撮影しておいていただくと参考になりますので、よろしくお願いいたします。

第7回 久之浜地区「防災緑地づくり会議」 開催のご案内

4月20日（日）13時～16時45分

場所・久之浜支所

第1部 13:00～14:15 生きものの視点から、質問&回答

第6回防災緑地づくり会議で皆さんから出された質問に対して、アドバイザーから詳しい解説をお聞きします。

第2部 14:30～16:45 住民による豊かな活用

防災緑地をみんなで育て、楽しい活動もできる場所にするため、夢の実現に向けた話し合いをします。他の地域の魅力的な活動の紹介もあります。「私はこんなことをしたい、こんな楽しい場所だったら行ってみたい」というご意見を伺わせて下さい。

※1部から通して参加される方はもちろん、2部からの参加も大歓迎です！どしどしご参加ください。



ニュース

秋葉神社に、モチノキが移植されました

津波に耐えた住宅地のモチノキを、久之浜のまちの記憶として残したいという声をいただきました。地域のみなさんのご協力で、秋葉神社の敷地内にモチノキを移植いたしました。まちの復興を見守ってくれることと思います。



昔のいわきの写真紹介：

第6回 防災緑地づくり会議で廣瀬先生が紹介した、江戸時代に整備された「塩除松」の写真です。これを発展させるような形で、官民一体で防災緑地がつけられるとよいですね！



編集後記：

植栽体験、おつかれさまでした。みなさん、お子さん連れで一緒に作業をされていたのが印象的です。ここから、次の世代に受け渡す森づくりがはじまるような気がします。

【お問い合わせ先】

福島県いわき建設事務所

担当：石倉、菅野

電話番号：0246 - 35 - 6075